

ICT活用物流効率化

国交省 横浜港で試験運用

国土交通省関東地方整備局は7日、横浜港で情報通信技術（ICT）を活用したコンテナ物流の効率化に向けた試験運用を実施したと明らかにした。事業者からおおむね好評だったとし、今後は成果をとりまめるとともに、同港で引き続き実験を重ね、東京港などでも行いたい考えだ。（三木 崇）

横浜港（東京港、横浜港）と全海上コンテナ部会が協力し、1日で最大26台のコンテナ車両を対象に搬出入時間の短縮を図った。試験は1月20日から今月3日まで、国内最大級のコンテナターミナルである南本牧（横浜市中区）で実施。ターミナルを運営する三菱倉庫と県トラック協

会が連携し、ICTを活用した試験運用が報告された。試験は1月20日から今月3日まで、国内最大級のコンテナターミナルである南本牧（横浜市中区）で実施。ターミナルを運営する三菱倉庫と県トラック協



横浜港でICTを活用した試験運用が報告された京浜港物流高度化推進協議会
＝横浜市中区

読み取り機にかざすことで、電子的に情報を読み取った。ターミナルに向かう道路

には自動料金収受システム（ETC）機器を設置。コンテナ車両の位置情報をターミナル側に事前に伝えることで、到着時間に合わせ、効率的な物流を行った。国交省の担当者によると、「事業者からは使いやすかったし、今後やっていきたい」と声が寄せられたという。